

# 世界俳句フェスティバル・ペーチ 2010

2010年8月6日～8月8日 報告者 ドッグ・ドラムヘラー (ニュージーランド)

和訳 ほしのまきこ

フェスティバルの朝、ブダペストのプラットホームに集合した。ペーチ旧市街行きの列車は雷雨と集中豪雨のために遅れた。ペータル・チョーホフ、夏石番矢氏、鎌倉佐弓氏、土谷直人教授、および木村敏夫氏と私はプラットホームで待っていた。そして、洪水で駅が水没しているのを見た。列車の遅延のために交通が遮断されてしまったかもしれないが、その雷雨のおかげで俳句を書くためのインスピレーションが湧いた。

大雷雨  
駅の頭上で  
愛を交わす天使たち

ホテル・フニョールに到着後、参加者は受付で登録を済ませ、挨拶を交わし、長旅について話し始めた。フェスティバルを祝うために11カ国から41名の詩人が集まった。ペーチ旧市街は、東洋と西洋の間の中心地であり、数多くの言語と文化が相互作用する会合の場として適していた。大会では色々な国の俳句を分かち合うことが目的だった。そのため、俳句が翻訳され、容易に世界の境界を越えられる詩型になりつつあることを表している。夏石番矢氏と世界俳句協会のメンバーによる努力と熱意は明らかに作家、翻訳者、読者が関わる世界的な文学運動への詩の短縮形の発展に貢献してきた。

ペーチ旧市街への参加者全員を歓迎したユディット・ヴィハールの司会によるフェスティバルのオープニングセレモニーが会議室で始まった。ペーチ旧市街は宗教建築物が異なった様式を持つため、5つの塔の街であると彼女は説明した。その後、トニー・ピッチーニの俳画展示会に誘われた。トニーは、後でそれぞれお気に入りの俳画の葉書を参加者全員に送ると申し出た。私の想像を引きつけた俳画は謝肉祭用のマスクを着けている人の姿だった。

死の背中を探そうと  
懸命になっている  
それはあざ笑っている

次に、私たちはカーロリ大学生の俳画展示会を鑑賞した。面白い俳句の展示が多くあった。その中には、折りたたみ式の本、Tシャツに書いた俳句、バッジ、また巢中に入っている卵に書いた俳句までがあった。

非常に独特な様々な手法を用いた俳句の展示を見るのは、大変壮快だった。やはり、俳句の融通性と型が持つ可能性のために私たちの想像の深さは制限されるにすぎないということを表している。ペーチ旧市街のショー・ウィンドウの俳句パネルを見にペーチ旧市街センターへ向かう前に、夕食を取った。

ペーチ旧市街は2010年の欧州文化首都の1つに選ばれ、「地中海ムード」の旧市街はフェスティバルで夏の精神を包んでいた。ショー・ウィンドウで俳句パネルを探し求めながらイースターエッグを探している子供のような気分になっていた。何故街がその名前になったのか、すぐ目の前にははっきり見える。1区画行った所にモスク、大聖堂、シナゴグ、さらに、ローマ時代までさかのぼれば、2000年にユネスコの世界遺産に登録された、初期キリスト教墓地早期まで見られるのだ。この魅力的な旧市街で古代と現代がひとつになる雰囲気を作り出すための糸口となっているトルコ風呂と建物の遺跡にオスマン帝国の名残りを見られるかもしれない。暗くなり過ぎて見えなくなるまで句作のためにウィンドーショッピングをし続けていた。ハンガリーの俳人、フェレンツ・バコスによる俳句には、彼のユーモアのセンスだけではなく、驚いたことに古代と現代の人間性のつながりを感じた。

ヌーディスト砂浜  
アダムとイブは  
メアドを交換する

翌朝、ブルガリア、クロアチア、オランダ、デンマーク、フランス、ハンガリー、イタリア、日本、ニュージーランド、およびルーマニアの現代俳句を含むフェスティバルの招待客による講演と朗読会を楽しんだ。ガーナの詩人

ヤコブ・コビア・アイア・メンサに会えるのを楽しみにしていたが、欠席が報告された。すべての朗読とフェスティバルアンソロジーはイギリスとハンガリーの翻訳を含んでいたが、母国語で朗読する詩人に耳を傾け、俳句ではどう表現するのかを聞き味わっていた。それ以外で、英語が一般的に使用されない場合は、それに取り組む努力を要する詩人が多いのかもしれない。ハンガリー人、クロアチア人、およびルーマニア人の詩人による俳句を聞くのは嬉しかった。地球の下の国に住んでいるとき、簡単に行き来できない他国の文学的伝統をさらに意識するようになれば、少しでも詩のフェスティバルにも参加する喜びが得られるのである。

アンソロジーの中でお気に入りの俳句の 1 つがブルガリア人の詩人ペータル・チョーホフだ。ペータルに会う前にも、次の俳句を学生に教えていた。

一番長い夜  
一羽のカラスは  
雪だるまの目を盗む

フェスティバルのハイライトは、世界俳句の会長として夏石番矢氏がワークショップを行った。創造的つながりのような俳句。講演の中で、まず第一に「世界俳句」は、新たに自然と人間性の間に発見されたつながりをもつ色々な国が一緒になったことが成果ではないのか、と彼は述べた。具体例として、彼はヤングライターズスクール出身の元学生を取り上げた。「どんな言語でも無邪気な子供は素晴らしい俳人であるかもしれない。オセアニアからの俳句はそれを示している。若いニュージーランド人は、奇跡のものとして自然を表現するために「ダイヤモンド」と「空」の間に素晴らしいつながりを見つけている。」

大洋の  
青色キャンバス  
ダイヤモンドの空

(黄色い夢飛ぶ、ニュージーランド『世界俳句 2007 No.3』 p.64)

美しく仕上がった『Madarak/鳥』の本は、三ヶ国語で刊行されたのだが、番矢氏はそこからの作品朗読でワークショップを終えた。エーヴァ・パーパイ氏は水彩画で表現し、夏石番矢氏とジャック・ガルミッツ氏による英訳、ハンガリー俳人ユディット・ヴィハル氏によるハンガリー語訳が 50 句俳句にすべてついている。この俳句集は夏石氏の詩のグローバルな視野と、以前旅行した大陸の自然な住民との深いつながりを示す。

雲間の一羽の鶴  
わが心は  
地球の経線にあり

彼はニュージーランドアイコンに関する俳句も取り上げた。

風の国  
キーウィ鳥離れぬ  
闇の中を

その晩、クロアチア・タンブリザバンド"Insulla Ivanic"、折紙協会、少女合唱団 Magnificat、ベラバードペーチ市聖歌隊によるパフォーマンスの合同式典でもてなしを受けた。その夜は音楽に満ち溢れ、ペーチ旧市街の市長ツォルト・パバ、在ハンガリー日本大使館の伊藤哲夫特命全権大使、夏石番矢氏(世界俳句協会会長)による正式なスピーチがあった。各人は、このフェスティバルが 21 世紀の俳句の発展のためばかりでなく、国際的関係に進展するためにどれくらい重要であるのかを述べた。ユディット・ヴィハル氏(ハンガリー-日本友好協会会長)は記念品を手渡した。そして、フェスティバルの参加者はショー・ウィンドウに飾られた俳句パネルのコピーを受け取った。それぞれの巻き物はフェスティバルの交流を思い出すために、ハンガリーの旗と同じ色の紐で巻かれ結ばれていた。旧市街センターのレストラン・ベラジオでブッフエスタイルの食事を喜んで食べながら、祝賀は夜まで続けて行われた。

フェスティバルの最終日は朝食で始まり、吟行会と俳句コンペが続けて行われた。インスピレーションを得るために庭にエスコートされた。そして、結果はホテルの会議室の閉会式で発表された。

世界俳句フェスティバル・ペーチ 2010 吟行  
(2010年8月8日 ハンガリー、ペーチ旧市街)

第1位

ドッグ・ドラムヘラー (ニュージーランド)

ふる池に  
蛙の像飛び込まぬ  
静けさや

第2位

バコス・フレンス (ハンガリー)

吟行歩き  
1年前に死んだ父が  
一度も履かなかった靴で

第3位

鎌倉佐弓 (日本)

メールを送って  
綿帽子が  
そろそろ飛んでいくところ

ペーチ市俳句賞

マリアス・チェラル (ルーマニア)

ペーチ旧市街の夏の夜  
ひとつひとつの窓に  
一句ずつ

ヨーロッパ文化都市賞

マイケル・ドゥテル (フランス)

日曜の鐘が  
鳴り止んだ  
天国に向かう叫びのように

この空想的な旅行で俳句賞を授与するとは思っていなかった。このように称賛を得ることはすばらしい名誉だが、文学フェスティバルがつかの間だが集中していたなかで、ペーチ旧市街で受け取った本当の最高の贈り物は、心から敬愛する詩人グループで多くの友情が開いたことだった。多くの通過ラウンジを通して大陸の向こう側に飛行機で30時間旅行することはむだではない。別れた後に互いの交流は深まり、今後共同研究を行う機会があるのだから。結びの言葉で、番矢氏は、次の世界俳句大会が2011年、日本の東京国際ポエトリーフェスティバルに関連して行われると発表した。招待されるなら、日本への旅行を望んでいるので、ハンガリー、ペーチ 2010 の交差点で終わったところから私たちの会話は続けられるだろう。